

2023 年度 高等学院同窓会学術研究奨励金

研究成果報告書概要（WEB 公開用）

高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [近藤 汰津樹]

学年・組・番号 [3年 B組 13番]

研究課題： イリノイ州ディケイター市における農業の実態調査

(英文) Survey of agricultural practices in Decatur, Illinois.

研究概要：

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200～400 字で記入してください)

地理の授業を通して、アメリカの大規模農業に興味を湧き卒業論文の題目とした。また、その対象地域として、私が住んでいる埼玉県所沢市と姉妹都市交流を結んでいるディケイター市を選んだ。教科書に記述されているコーンベルトの農業地帯の定説を検証した。教科書にはとうもろこしと大豆の輪作を行い、広大な敷地で穀物メジャーが大きな支配力を持っている。とある。この定説は日本で一般的な農家のイメージからは全く想像がつかないものである。このことから、実際にその土地に行ったことがない私としては、俄かに信じがたい説明である。そこで、現地に行ったことがない生徒でも容易に現地の様子を想像できるよう定説の検証を行うことを目的とし、最適な記述を提案した。現地では農家やマーケットを視察、生産者に話を伺うことができた。

研究成果：

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200～400 字で記入してください)

本研究では、アメリカのコーンベルト、イリノイ州ディケイター市における農業の実態調査をした。教科書の記述では、アメリカの穀物生産には穀物メジャーと呼ばれる大企業が影響を与えているとある。教科書に記載されている定説は正しいのか検証を行った。ディケイターの農家やマーケットを視察、生産者に話を伺うことで調査を行った。結果として、ディケイター市の農業地帯においては、穀物メジャーである ADM 社が大きな影響力をもっており、巨大な流通システムを構築していることがわかった。一方で、教科書では触れられていなかった小規模農家が大きな存在であることが確認できた。本研究では、これまで重要視されていなかった個人農家の重要性を確認し、より最適な教科書記述を提案することができた。

研究者：(以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 近藤汰津樹

担当教諭 本木弘梯

(受給額： 3万円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します

(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



写真 1 : ファーマーズマーケットで販売される野菜 (2023/7/29)



写真 2 : 同様



写真 3 : 同様

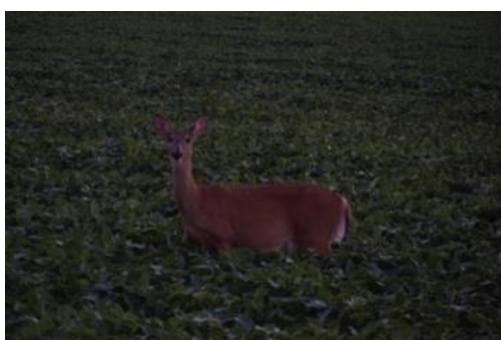


写真 4 : 作物を荒らす鹿(8/1)



写真 5 : 作物を食べる鹿の群れ (8/1)

以上